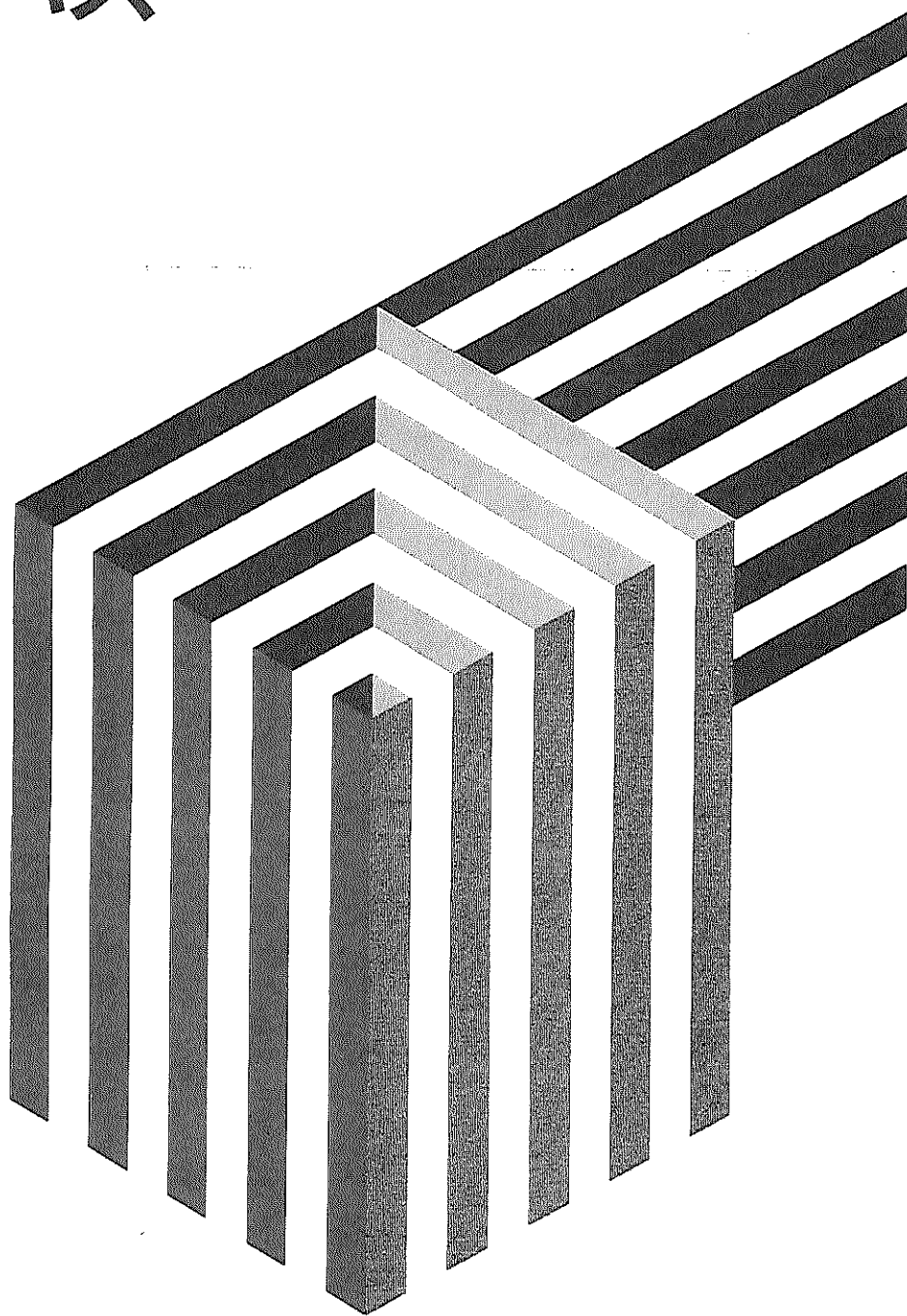


教職課程科目 シラバス



1994年度
獨協大学

目 次

[] 内は92年度以前入学者の科目名

<教職に関する科目>

教育原論 I (前期)・II (後期) [教育原論]	2
教職心理学 I (前期)・II (後期) [教職のための心理学]	6
生涯教育論 [生涯教育論]	12
学校教育論 [学校教育論]	14
教育法規 [教育法規]	16
教育方法学 [教育方法の理論と応用]	18
[ドイツ語科教育法]	20
[英語科教育法]	22
[フランス語科教育法]	30
[社会科教育法]	32
[地理・歴史科教育法]	34
[公民科教育法]	36
道徳教育の研究 [道徳教育の研究]	38
特別活動 [特別活動]	39
生徒指導法 [生徒指導法]	41
教育実習 I [教育実習 I] <small>(教育実習の事前・事後指導) (教育実習の事前・事後指導)</small>	45
教育思想史 [教育思想史]	48

<教職に関する科目>

地理学調査法 [地理学調査法]	49
日本史概説 [日本史概説]	50
外国史概説 I (前期)・II (後期) [東洋史概説]	52
外国史概説 III (前期)・IV (後期) [西洋史概説]	54
地理学概説 [地理学概説]	56
地誌学概説 I (前期)・II (後期) [地誌学概説]	58
社会学概論 [社会学概論]	60
哲学概説 [哲学概説]	62
倫理学概論 [倫理学概論]	64
宗教学概論 [宗教学概論]	66
心理学概論 [心理学概論]	68

<新・旧科目の移行措置と履修学年>

70

教育原論 I・II (教育原論)

[教育原論 I (前期)]

担当者：鳥谷部 志乃恵 研究室：[717]

テキスト：『新刷教育原理』 名倉英三郎 八千代出版

目 標： 教育哲学の視点から、教育の本質や目的、内容、方法等について、原理的にかつ系統的に学習することによって、教育についての全体的な理解を形成することを目標とする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	本講義の進め方と参考文献について説明する。 1. 教育の概念と基本的機能について
	2	(1) 教育の概念 (一般的な定義、概念の広がり、隣接関係)
	3	(2) 教育の必然性
	4	(3) 教育の可能性と限界 (遺伝と環境)
	5	(4) 教育の本質
	6	(5) 教育の場 (家庭、学校、社会)
	7	2. 教育の目的 (1) 教育と人間像 (価値的な人間の追究、目的と実践)
	8	(2) 教育目的の設定 (目的論の位置、教育目的の客観性と合理性)
	9	(3) 教育目的の諸要因 (社会、個人、文化)
	10	(4) わが国の教育目的 (教育目的の近代化、教育法規にみられる教育目的)
	11	(5) 人間観と教育
	12	(6) 子ども観と教育
備 考		

[教育原論Ⅱ（後期）]

	週	内 容
後 期	1	4. 教育の内容 (1) 教育内容の意味（教育内容と教育課程、教育課程の意味と領域）
	2	(2) 教育内容の選択（内容選択の基準、内容の配列、教科書）
	3	(3) 教育内容の組織（各種カリキュラムについて）
	4	(4) わが国の教育課程（教育課程政策の変遷）
	5	(5) 教育課程の展開
	6	5. 教育の方法 (1) 教育方法の発達（教育観と教育方法、学習指導の近代化）
	7	(2) 教授の原理と方法
	8	(3) 学習指導の原理と方法
	9	(4) 生活指導の原理と方法
	10	(5) 学校教育の発展（学級教授の成立と普及）
	11	6. 教師 (1) 教育と教師、理想的教師像
	12	(2) 教職と教養と身分について
備考		

評価方法： 定期試験を実施する。夏休み前に教育学関係の文献を提示する。それを（提出課題、試験等）参考としながらレポートを作成して、夏休み明けに提出する。
評価は、この二種類によって行なう。

教育原論 I・II [教育原論]

[教育原論 I (前期)]

担当者: 鹿毛 誠一

テキスト: 「教育の三一的な原理」及び「教育と理解」: 晃洋書房 鹿毛著

目 標: 「教育とは何か」、それは「どうして、どうなることか」の概観になるだろう。

しかし、その関連事象のたんなる知識や情報の伝達に終らずに、教職に就いてから、基本的に役立つ教育の本質論を目ざしている。

年間予定

() 曜日: () 限: () 棟 ()

週	内 容
1	人はどの職業に就き、何を専門とするにしても、その途中で何度か放棄したくなる。そのような時に、また教育の理解も新しくなる。
2	「三一的な原理」の構造連関を、先ず教職での個性、連帯および生計の三位一体性で考えてみる。
3	教育とは、どうしてどうなることか。それを言葉や意識の二義・相対性に基づく多義的な曖昧さから、解きほぐしてみる。
4	教育の原理としての「自己教育」を、師弟の相方向からの「自己否定」からも見直す。
5	教職での、教育と研究と生活や、連達性と聡明性と人倫性などなどの三一的關係から「考えることを学び、働くことを学ぶ」の思考と学びと労働の統一が得られよう。
6	人類の文化と幸福を目ざしての人間理解に、home-sapiens, -faber, oeconomicus, -politicus-religiosus などと、さまざまな解し方があった。
7	上の多様な人間理解を「教育の相の下で」見れば、また新たな展望が開けよう。それらの相対的理解をさまざまに転回するだけでなく「統一」が不可欠になる。
8	教育が現に行われている「場」として、歴史的な伝統や課題、社会的な教材や学習集団の異同が、三一的な統一の内容をなしている。
9	統一を形式的に、その方法からいえば、教育技術の問題になる。この方法論の所在は、学問と教育の間の異同と間隙からの実践領域として確認される。
10	教育技術は、たんなる実習や手段などでなく、スキル、タクト、かん・こつの要領とされてきた。これらの方法ば、さらに方法論へと進められなくてはならぬ。
11	方法論は、類型論や科学技術論に求められて来たが、それらの実践知には尽きない、芸や技の領域が残っている。タクトやかんを伝達可能な方法論に進めよう。
12	方法論の一つとして、従来の方法を洗練するだけでなく、一般的なイメージの「型」へ造型することで伝達可能な方法論になり、望ましい教師像の形成もありうる。
備考	教育の本質論は方法論と表裏して必然的に連なっているから、後期の「教育言論 II」を続いで受講されるのが望ましい。

〔教育原論Ⅱ（後期）〕

テキスト：「教育と理解」：晃洋書房 鹿毛著

目 標： 前期の「教育原論Ⅰ」で指摘した教育技術の方法論を主題とし、さらにいわば、教育原理論の各論に進むことで、本質論を具体化し、その内容を一そう豊かなものにする。

年間予定

	週	内 容
後 期	1	学問と教育の異同は、あまり問われることがなかった。また本質論と方法論とは、きり離して扱われることが多かった。方法や技術は差別視されていた。
	2	東洋でも西洋でも中世まではむしろ、上記の両者は一つのこととの考え方のみであり、選別は近代の分析的合理化が進んだから、と分ってくる。
	3	プラトンやアリストテレスの教育論は、古典的と尊ばれている。その「イデア」論や「中」論の発想にはたんに知的ではないユニークな発想が見られる。
	4	日本で伝統の文芸や武芸の「技」も、たんに練習一点張りやかん・こつの神秘論ではなかった。工夫と考案の方法がやはり残されている。
	5	東西文化の比較を、その形成技術過程で見直せば「自然」の理解のし方の違いからして違うことが分る。日本では文化の形の洗練と内心の「型」への形式が目立つ。
	6	その異同を具体的に見てみよう。プラトンの「魂の羽搏き」、アリストテレスの「フィリア」、ルソーの「自然へ帰れ」、カントの「世間知」などを見る。
	7	続いて、世阿弥の「離見の見」、藤原定家の「無師賢覚」、松尾芭蕉の「軽み」や「連句」の一座、宮本武蔵の「二目使い」などで技の造型論を考察する。
	8	デューウィの「新教育」での習慣論、ロジャーズのカウンセリングでの「ノン・デレクティブ・メソッド」、またボルノーの「時間・空間」の形成論も面白い。
	9	生涯統合学習での、従来の「業績主義」とは異なる学び方と遊び方との方向と方法を考えてみる。
	10	生涯学習での成果と評価のし方も変るはずである。学級経営や教育行政・財政も違って来よう。総合学科や学際的な学問の盲点も見えてくるだろう。
	11	国際化とかボーダー・レスともいわれる多様化した価値の現代社会で、その多様な豊かさを享受しながら、自己同一性を失わぬ方法が問われる。
	12	教師論は、生死論や時間論で現代的な課題になっている。自己の生と一生涯を全くするための教師としてのスタイルの「型」が、各自に見出させるか否か問題であろう。
備考		拙稿のコピーを適宜に配布する。講義の主題は、広狭や遅速があって動き変ることがある。

〔教育心理学Ⅱ（後期）〕

テキスト：

目 標：本講義では、教育心理学Ⅰをふまえたうえで、その応用的な側面について考察する。さらに、カウンセリングの研究や各種のトレーニングを実施し人間理解、生徒理解を深める。

年間予定

	週	内 容
後 期	1	青少年国際比較調査結果 世界11ヶ国の青年の中での日本青年の特徴について講義する。
	2	現代青年の特徴（1） 現代青年が以前の青年と比べてどのような特徴があるか考察する。
	3	現代青年の特徴（2） 同上
	4	生徒の問題行動 非行、いじめ、登校拒否など現在学校で問題になっている行動を講義する。
	5	生徒の精神衛生 神経症、精神病、自殺などについて考察する。
	6	性差心理学（1） 男性と女性の身体的、精神的な差異について考察する。
	7	性差心理学（1） 同上
	8	教師のリーダーシップ 望ましい教師のあり方、教師の資質について検討する。
	9	カウンセリング実習（1） カウンセリングの基本的な実習を行なう。
	10	カウンセリング実習（2） カウンセリングの各種の技法についての実習を行なう。
	11	アサーティブ・トレーニングについて 相手の話を十分に聞け、自分を十分に表現できるトレーニングをする。
	12	グループ討議 現在の中学・高校での諸問題についてグループに分かれて討議する。
備 考		

評価方法：評価方法は、講義内容に関するレポートとする。

教職心理学 I・II (教職のための心理学)

[教職心理学 I (前期)]

担当者：鈴木 乙史

テキスト：テキストはなし。参考書は、そのつど紹介する。

目 標： 教職に就く者として、児童・生徒の理解は欠かすことができない。Iにおいては、発達のプロセス、学習のメカニズム、知能の構造、そして教授者－学習者間の関係についての基礎的知識の獲得と理解をめざす。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
前 期	1 オリエンテーション。第1回目の授業として、教職心理学 I では、どのようなテーマを講義していくか、その概略を述べ、II との関連を説明する。
	2 発達①：愛着と基本的信頼感の形成についてのべる。
	3 発達②：野生児研究、マターナル・ディプリベーション研究から、人間的環境の重要性について論じる。
	4 発達③：自己コントロールとしての自立性について述べ、実習として自己主張テストを実施し、結果を検討する。
	5 発達④：自己意識と自我同一性について論じ、20 答法を実施し、結果を検討する。
	6 学習①：無学習性行動と学習性行動のメカニズムを比較し、学習メカニズムとプロセスについて考える。
	7 学習②：条件づけやモデリングのプロセスについて理解を深め、あわせて内発的動機づけについても検討する。
	8 知能①：知能と知能テストの違い、知能の構造について論ずる。
	9 知能②：一般知能説、多因子説、新しい考えを比較し検討する。
	10 知能③：ピアジェの発達論を論じ、量的側面だけではなく、質的変換の側面にも理解を深める。
	11 教授－学習過程論について論ずる。特に、ATI 研究から、処遇の重要性についての理解を深める。
	12 日米共同研究を基に、アメリカの学生と日本の学生の共通性と差異点について検討する。
備 考	

評価方法：テスト期間中に、筆記式テストを実施する。出席も毎回とる。

(提出課題、試験等)評価は、その両者の結果からおこなう。

〔教職心理学Ⅱ（後期）〕

テキスト：林・滝本・鈴木、『カウンセリングと心理テスト』 プレーン出版

目 標： 教職に就く者として、児童・生徒の理解は欠かすことができない。Ⅱにおいては、臨床的側面に焦点をあて、登校拒否や神経症などの精神障害の理解、そしてカウンセリングの基礎の習得を、実習を含めて進めていく。

年間予定

	週	内 容
後 期	1	オリエンテーション。教職心理学Ⅱでは、どのようなテーマをどのような方法ですすめていくかを述べる。同時に受講生各自が満たすべき課題を与える。
	2	精神障害の基礎①。児童期・青年期に好発する精神障害について。
	3	精神障害の基礎②。神経症のタイプとメカニズムについて。
	4	自己理解のために①。他者を理解するためには、自己の理解が必要である。性格テストを実施し、内容を相互に検討する。
	5	自己理解のために②。課題①「日常会話の意識化」を提出させ、その内容について相互に検討する。
	6	パーソナル・コミュニケーションの特質について論ずる。
	7	カウンセリングの基礎①。紙上応答訓練法を説明し、小グループで応答を相互に検討する。
	8	カウンセリングの基礎②。紙上応答訓練法を実施し、小グループで応答を相互に検討する。
	9	カウンセリングの基礎③。課題②「ロール・プレイ」を提出させ、その内容について相互に検討する。
	10	カウンセリングの基礎④。いくつかのロール・プレイを材料に、応答内容を検討する。
	11	生徒指導の方法。いくつかのケースについて、その問題をどう考え、どのように対処するかを相互に検討する。
	12	まとめ。全体のまとめをおこない、課題③「この講義を通じて考えたこと」の発表をおこなう。
備考		この講義は、内容の性質上、実習が多く行われるためゼミ形式をとる。

評価方法：出席率、クラスでの貢献度、課題①②③を満たしているか、
（提出課題、試験等）課題③のレポートの内容を総合して評価をおこなう。

教職心理学 I・II [教職のための心理学]

[教職心理学 I (前期)]

担当者：横田 雅弘

テキスト：プリントを配布する。参考文献は授業の中で示す。

- 目 標：①実際に教職についてきたときに役立つ実践的知識を身につける。
 ②自分を知り、どのような教育者になろうとするのかを掴む。
 ③教職試験に必要な知識を身につける。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前	1	オリエンテーション (教職心理学 I II について)。発達と教育(1):発達観と教育、認知的発達の理論、社会性の発達などについて概観する。
	2	発達と教育(2):引続き上記のテーマについて学ぶ。
	3	人間関係とパーソナリティの成熟(1):親の養育態度と子供のパーソナリティの関連について学ぶ。
	4	人間関係とパーソナリティの成熟(2):学級集団のダイナミクス (友人関係、教師生徒関係、リーダーシップなど) とパーソナリティの成熟について学ぶ。
	5	人間関係とパーソナリティの成熟(3):引続き上記のテーマについて学ぶ。
	6	青年期の心理特性について学ぶ。
	7	青年期の身体成熟とセクシャリティ:性的成熟の身体的・心理的側面、性と社会、学校における性・エイズ教育などについて学ぶ。
	8	学習理論と知能の発達についての基礎知識を学ぶ。
期	9	学習指導法、動機づけを喚起する教育、教育評価について学ぶ。
	10	学校不適応と精神衛生(1):登校拒否、校内暴力、いじめなどについて概観する。
	11	学校不適応と精神衛生(2):カウンセリングの基礎知識について学ぶ。
	12	まとめと補講
備 考		

[教職心理学Ⅱ（後期）]

週	内 容
1	学校不適応と精神衛生(3):ケース・スタディ
2	学校不適応と精神衛生(4):ケース・スタディ
3	パーソナリティの理論について学ぶ。
4	自分に気づく(1):交流分析理論を学ぶ。
5	自分に気づく(2):交流分析理論を通して自分のパーソナリティを洞察する。
6	自分に気づく(3):教育者としての自分の強みと弱みを洞察する。
7	他人と状況に気づく: スモール・グループでの演習(ただし受講者の人数によっては変更する場合有り)
8	他人と状況に気づく: 同上
9	模擬教育実習(1):学生が適当なテーマを選んで実際に教室で教えてみる。それについてフィードバックとディスカッションを行う。
10	模擬教育実習(2):同上
11	子供の人権と平等について考える。
12	まとめと補講。レポートのテーマを発表する。
備考	

評価方法: 不定期に出欠をとるためのクイズ(簡単な設問や自由記述形式)を行う。
 (提出課題、試験等)教職心理Ⅰは学期末のテストを、教職心理Ⅱはレポートを評価する。
 授業への貢献度を評価する。

生涯教育論

担当者：豊田 千代子

テキスト：なし

目 標：本講では、主にわが国の生涯学習政策についての概要を把握し、その検討を通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えることを目的とする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期 後 期	1	第1回目の授業では、授業の進め方、および評価方法などについての説明を行なう。
	2	第2回目の授業では、ユネスコの生涯教育論（(1) P. ラングラン、(2) E. ジェルピ、の理論）を取り上げ、生涯教育の理念について検討する。
	3	第3回目の授業では、ノンフォーマル・エデュケーション、リカレント教育、有給教育休暇などをめぐる生涯教育の国際的動向について検討する。
	4	第4回目の授業では、ビデオを用いて、わが国の生涯学習の実態を明らかにする。（ビデオ：「学習社会への胎動」）
	5	第5回目の授業では、臨教審答申や「生涯学習振興法」などの検討を通してわが国の生涯学習政策の概要を明らかにする。
	6	第6回目の授業では、文部省・労働省・厚生省など各省庁の生涯学習施策について検討し、わが国の生涯学習政策の性格を明らかにする。
	7	第7回目の授業では、幾つかの事例を取り上げ、地方自治体における生涯学習政策について検討する。
	8	第8回目の授業では、「社会的弱者にとっての生涯学習」という観点から、わが国の識字教育の現状と課題について検討する。（ビデオ使用）
	9	第9回目の授業では、生涯学習を学校教育との関連で捉え「閉ざされた学校」を「開かれた学校」にしていくための教育改革の方向性について検討する。
	10	第10回目の授業では、社会教育の概要（定義・歴史・施設・学習形態など）を明らかにし、生涯学習と社会教育との関連について検討する。
	11	第11回目の授業では、学校教育と社会教育との連携（「学社連携」）のあり方について探る。
	12	第12回目の授業では、「成人の発達・学習」という観点から、自己を育てていく成人の「生涯学習」のあり方について検討する。
備考		

- 参考文献：・麻生誠編『生涯発達と生涯学習』、放送大学教育振興会 1993年
- ・日教組教育改革推進委員会研究協力者会議編『現代生涯学習読本』
エイデル研究所 1991年
 - ・碓井正久・倉内史郎編『新社会教育』学文社 1986年

評価方法： 評価は、主に、レポート形式で行なう。（①課題に基づくレポート、
（提出課題、試験等）②「授業を通して学んだこと」についてのレポート—自己評価—。）

* 司書課目「社会教育」と合併授業

学 校 教 育 論

担 当 者：渋谷 英章

テキスト：教育制度研究会編『要説・教育制度（全訂版）』学術図書出版社

目 標：今日の私たちにとって、大人になるまでの長い間を学校で過ごすことが、当然とされてきている。この学校について、その歴史的発展と社会的機能、そして現代の学校のかかえる諸問題を検討し、改めて学校とは何かを考える。

年間予定

（ ）曜日：（ ）限：（ ）棟（ ）

	週	内 容
後 期	1	現代の学校の諸問題を具体的に例示し、受講生のこれまでの体験にもとづいた「学校」についてのイメージを記述してもらう。
	2	第1回の受講生から出された「学校」のイメージをもとに、自分自身にとっての学校の意味を考える。
	3	原始社会、古代社会、中世社会の学校の歴史的発展について考察する。
	4	近世、近代の学校の歴史的発展について考察する。
	5	現代公教育の原理を歴史的発展をふまえて考察する。
	6	学校体系論について考察する。
	7	乳幼児期の「学校制度」を考察する。
	8	児童期の学校制度を考察する。
	9	青年期の学校制度を考察する。
	10	生涯学習社会における学校について考察する。
	11	「脱学校論」による学校教育批判を考察する。
	12	試験
備 考		

評価方法： 評価は、試験の成績をもとに出欠状況を加味して行なう。試験の前に、問
(提出課題、試験等)題についての概略について示し、また教科書およびノートの持ち込みも可と
するが、90分の試験時間では足りなくなることも予想されるので、授業内容
の理解と試験前の準備が必要不可欠である。

教 育 法 規

担 当 者：渋谷 英章

テキスト：教育制度研究会編『要説・教育制度（全訂版）』学術図書出版社

目 標： 教育法規の意義とその構造を理解し、教員としての職務の遂行にあたって、必要に応じて法的な裏付けとなる規定を自ら確認できるような知識と能力を獲得する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
後 期	1	身近かな教育事象の裏付けとして、どのように法的な規定が定められているかを示し、教育法規を学ぶ意義について考える。
	2	教育法の法体系およびその原則を考察する。
	3	憲法の教育条項および教育基本法の条文について考察する。
	4	教育基本法の条文およびその規定の根源である公教育原理について考察する
	5	学校教育法について考察する。
	6	学校教育法について考察する。
	7	地方教育行政の組織及び運営に関する法律について考察する。
	8	地方教育行政の組織及び運営に関する法律について考察する。
	9	教育公務員特例法について考察する。
	10	社会教育法について考察する。
	11	現代の教育問題と教育法について考察する。
	12	試験
備考		

参考文献：『教育小六法』（学陽書房）

評価方法： 評価は、試験の成績をもとに出欠状況を加味して行う。試験には教科書、
(提出課題、試験等)ノート、教育六法等を持ち込み可とするので、条文等を暗記するのではなく、
さまざまな法律等がなぜ必要とされ、そのためにどのような法規定がなされているのかという本質的な問題を授業を通して理解しておくことが必要であり、具体的な教育事象に関する規定がどの法律等で定められているかを構造的に理解しておくこと。

教育方法学 [教育方法の理論と応用]

担当者：町田 喜義 研究室：[528]

テキスト：印刷物、ビデオ、その他を使用

目 標： 今、教育は色々な意味で激動期を迎えている。本講義は、コミュニケーション理論と教育方法との関わりを「教育の技術」という視点から再検討し、各自の教育方法を自己評価できるようになる事を目標とする。

年間予定 () 曜日： () 限： () 棟 ()

	週	内 容
前 期 後 期	1	プロローグ(prologue)：担当者自己紹介、講義計画予定表配布、 講義概要説明、その他
	2	ビデオ：『若き教師たちへ』
	3	コミュニケーション・プロセスとコミュニケーション・モデル： 送り手、受けて、メッセージ、メディア、効果（影響）
	4	教育コミュニケーション・プロセスとそのモデル： 教師、生徒、学習情報、メディア、テスト・評価
	5	教育コミュニケーション：その変遷と課題 E. デールの理論：経験の円錐
	6	教育メディアの利用と実践：ビデオ『超高層ビルはなぜ倒れないのか』
	7	討論：『超高層ビルはなぜ倒れないのか』を観て
	8	教育コミュニケーション： 授業とメディア：特性・処遇・課題交互作用(TTTI)
	9	授業過程における教育メディアの選択：
	10	学習と指導の評価：ビデオ『計れる学力と計れない学力』
	11	学習の指導と評価：テスト(testing)
	12	エピローグ(epilogue)：教師の役割、『なぜ君は教師を目指すのか』
備 考	上記の内容・進度には若干の修正があり得る。	

参考文献：別紙にて知らせる。

評価方法：（受講生数によって変更するが）

（提出課題、試験等） 期末試験 40%， 課題レポート(1) 20%， (2) 20%，
出席点 20%（欠席1回につき2点減、遅刻1点減）

教 育 方 法 学 [教育方法の理論と応用]

担 当 者：針 生 悦 子

テ キ ス ト：なし

目 標：動機づけや知識獲得の理論について概説した上で、それを生かした授業づくりを考えていく。後半は、マイクロ・ティーチングをすることによって、実践的な教授技術の獲得をめざす。

年 間 予 定

() 曜 日：() 限：() 棟 ()

週	内 容
前 期 後 期	1 よい先生の条件（教え方、生徒とのコミュニケーションのとり方etc.）について考える。（ビデオ教材を使用）
	2 やる気を出させるにはどうしたらよいか（1） 賞罰の効果などについて考える。
	3 やる気を出させるにはどうしたらよいか（2） ほめ方、叱り方について、帰属理論とからめて考えていく。
	4 生徒に考えさせ、興味を引き出すような授業（仮説実験授業、討論を取り入れた授業etc.）について考える。
	5 人間は、外から与えられた情報を、どのようにして取り入れ、自分のものとしていくのか、その知識獲得のメカニズムについて概説する。
	6 前回は踏まえて、学習者にとってわかりやすい情報提示の方法について考える
	7 さまざまなメディアを取り入れた授業づくりについて考える。（ビデオ教材を使用）
	8 具体的な授業設計の方法や、授業研究の方法（記録のつけ方、評価の視点etc.）について考える。）
	9 マイクロ・ティーチングの具体的なやり方、評価方法についてのガイダンス。ビデオを見て、授業評価の実習も行なう。
	10 マイクロ・ティーチングの計画を各自が作成する。
	11 マイクロ・ティーチング実習。
	12 マイクロ・ティーチングの反省、及び、授業改善案の作成。
備 考	

評価方法：単位の認定、および、評価は、授業中しばしば課される小課題の提出、マイ
(提出課題、試験等)クロ・ティーチングへの参加、その「授業改善案」に関するレポートの提出
によってなされる。なお、マイクロ・ティーチングに参加する条件として、
それ以前の授業にきちんと参加することが求められる。

ドイツ語科教育法

担当者： 糸井 透

研究室： [514]

テキスト： なし

目 標： ①ドイツ語を教える場合に生ずる基本的問題を検討・考察。②教師としての心得、③毎回テストを行い、ドイツ語の基礎知識を養成、④後期は模擬授業を行い、教育実習に備える。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
前 期	1 ①オリエンテーション。 ②ドイツ語基礎知識テスト
	2 ①ドイツ語テスト ②授業のしくみについて
	3 ①小テスト ②教授法の歴史概観
	4 ①小テスト ②コミュニカティブ・アプローチについて
	5 ①小テスト ②サジェストペディアについて
	6 ①小テスト ②同上ビデオによる検討
	7 ①小テスト ②教室内Körper Spracheについて
	8 ①小テスト ②学習指導要領について
	9 ①小テスト ②教案とは何か
	10 ①小テスト ②教材研究と教案作成
	11 ①小テスト ②学習と評価について
	12 ①小テスト ②教師としての心得等について
備 考	

	週	内 容
後 期	1	模擬授業による教授法の研究
	2	同上
	3	同上
	4	同上
	5	同上
	6	同上
	7	同上
	8	同上
	9	同上
	10	同上
	11	同上
	12	同上
備 考		

参考文献： 参考文献は授業で指示する。

評価方法： 毎回のテスト及び前期、後期テストによる。

(提出課題、試験等) 出席を重視する。

	週	内 容
後 期	1	前期試験結果について Teaching Plan について、「文法」の指導
	2	「聞くこと」と「話すこと」の指導
	3	「読むこと」の指導
	4	「書くこと」の指導
	5	Audio-visual Aids (1)
	6	— (2)
	7	Testing and Evaluation (1)
	8	— (2)
	9	Teaching Practice (1)
	10	— (2)
	11	— (3)
	12	まとめ
備 考	Project 2 のレポート提出期限は、11月の第二週目の授業時とする。	

参考文献：前期の初めにテーマごとの参考文献を紹介する。

評価方法：前期と後期にレポートの提出（各1回）と学期末試験がある。

（提出課題、試験等）このほかに、学外の授業見学レポート（最低1回）を出さなければならない。

詳しくは第1回目の授業で説明する。

英語科教育法 3

担当者：三好 健

研究室：[527]

テキスト：前期はとくになし。後期に高校用英語読本を使用する。

目 標：理論と実際の両面から立派な英語教員となるための基礎力を養うことを目標とする。前期では英語学習の意義や英語教育の目的を考え、英語教育の歴史と各種教授法を概観し、後期では教材研究を兼ねて実地の演習を行なう。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

週	内 容
前 期	1 イントロダクション。一年間の授業のスケジュールを説明し、「英語科教育法」なるものを分析することにより、この科目の解説を行なう。
	2 英語学習が日本人にとってどのような教育的価値があるか、という問題を提起し、英語教育の目的を考えることの重要性を強調する。
	3 以下四回にわたって欧米における外国語教授の歴史と各種教授法を概観する。 [その1] 中世ヨーロッパのラテン語教育とGrammar-Translation Method
	4 [その2] Natural Methodと Direct Methodなど。
	5 [その3] Phonetic Method とOral Method など。
	6 [その4] Graded Direct MethodとOral Approach など。
	7 以下四回にわたって、我が国における英語教育の歩みを概観する。 [その1] 切支丹時代から江戸時代。 — 英学の発端とその初期。
	8 [その2] 幕末から明治時代前期。 — 鎖国の影響と学校教育の中の英語教育。
	9 [その3] 明治時代後期から大正時代。 — 英語教育の隆盛と批判。
	10 [その4] 昭和時代と今後の問題。 — 戦争時代を経過して米語の時代へ。 英語教育の歴史をふり返って、そのまとめ。とくに批判を考える。
	11 学生の提出した「英語教育の目的」のレポートをまとめて批評を加えると共に目的論の第一段階として「なぜ外国語を学ぶか」を論じる。
	12 目的論の第二段階として「日本人にとっての英語学習の価値」を論じる。
備 考	

週	内 容
1	後期の授業スケジュールの説明。高校用英語読本を使って教材研究の仕方と授業の進め方、およびTeaching Plan の書き方を解説する。
2	実際の英語教室における学校文法の扱い方を概説する。そして次回から行なう演習の割り当てを発表する。
3	以下九回（ないし十回）にわたって、受講者全員にテキストの分担部分を用いて模擬授業をやってもらう。同時にTeaching Plan を提出してもらう。
4	学生による模擬授業とTeaching Plan 提出と、その短評。（その2）
5	同 （その3）
6	同 （その4）
7	同 （その5）
8	同 （その6）
9	同 （その7）
10	同 （その8）
11	同 （その9）
12	講座のまとめ。「立派な英語教員（理想の英語教員像）」とはどのようなものか、を述べる。
備考	

参考文献：第一回目の授業時に説明する。

評価方法：レポートと年二回の試験と出席状況によって評価する。レポートに関しては（提出課題、試験等）第一回目の授業で説明する。

英語科教育法 4

担当者: J. J. ダゲン 研究室: [610]

テキスト: Hubbard, P. et. al.: *A Training Course for TEFL*

目 標: In this class, we shall observe the background of English education in the first term, and then apply this learning to the practical aspects of English education in the second term.

年間予定 () 曜日: () 限: () 棟 ()

週	内 容
1	Course description and explanation .
2	Theme: <i>The role of the teacher</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
3	Theme: <i>The aspect of the classroom</i> . Lecture. Discussion.
4	Theme: <i>The influence of the teaching situation</i> . Lecture. Discussion.
5	Theme: <i>The relationship of teacher, classroom and situation</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
6	Theme: <i>Considering "Why?"--Approach</i> . Lecture. Discussion. Text pp. 30~38
7	Theme: <i>Considering "How?"--Method</i> . Lecture. Discussion. Handouts.
8	Theme: <i>Considering "What?"--Technique</i> . Lecture. Discussion. Assignment.
9	Theme: <i>Traditional Methods</i> . Lecture. Discussion. Presentations.
10	Theme: <i>Traditional Methods, part2</i> . Lecture. Discussion. Presentations.
11	Theme: <i>New Methods</i> . Lecture. Discussion. Presentations. Text pp. 241 ~246
12	Theme: <i>New Methods, part2</i> . Lecture. Discussion. Presentations. Text pp. 247 ~253
備考	

週	內 容
1	Theme: <i>Teaching Grammar</i> . Lecture. Discussion. Text pp. 3~30.
2	Theme: <i>Teaching Grammar, part2</i> . Presentations. Discussion.
3	Theme: <i>Teaching Oral Communication</i> . Lecture. Discussion. Text pp. 198~205.
4	Theme: <i>Teaching Oral Communication, part2</i> . Presentations. Discussion.
5	Theme: <i>Teaching Pronunciation</i> . Lecture. Discussion. Text pp. 207~239.
6	Theme: <i>Teaching Pronunciation, part2</i> . Presentations. Discussion.
7	Theme: <i>Teaching Listening</i> . Lecture. Discussion. Text pp. 79~95.
8	Theme: <i>Teaching Listening, part2</i> . Presentations. Discussion.
9	Theme: <i>Teaching Reading & Vocabulary</i> . Lecture. Discussion. Text pp. 41~61.
10	Theme: <i>Teaching Reading & Vocabulary, part2</i> . Presentations. Discussion.
11	Theme: <i>Teaching Writing & Composition</i> . Lecture. Discussion. Text pp. 61~79.
12	Theme: <i>Teaching Writing & Composition</i> . Presentations. Discussion.
備考	

後
期

評価方法： Grades will be assessed based on in-class participation (and there-
(提出課題、試験等) fore attendance), assignments, presentations and a final paper.

英語科教育法 5

担当者：石井 敏

研究室：[]

テキスト：東 真須美 『英語科教育法ハンドブック』 大修館書店

目 標：最初に、西洋と日本における外国語教育の目的と方法に関する歴史的背景を概観する。次に、日本の英語教育の現状と問題点について理解を深め、学習指導要領に基づいた指導案の作成と模擬授業の展開を実践する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	本講義の目標、予定、評価、教科書と参考書等についての一般的説明。日本人と異文化との接触、英語の受容と排斥に関する概説。(教科書1～13頁)
	2	戦後日本における英語教育の動向及び学習指導要領の導入と変遷についての解説。(教科書14～33頁、参考書『学習指導要領の展開』)
	3	現代日本の英語教育の実情と問題点、国際化社会に応じた英語教育の方針に関する解説。(教科書30～45頁、参考書)
	4	古代から現代初期に至る西洋の外国語教育の歴史に関する概説。(教科書46～59頁)
	5	現代における主な外国語教育理論と日本への影響に関する解説と批評。(教科書59～81頁)
	6	言語能力とコミュニケーション能力、外国語と第2言語の比較考察。(教科書82～99頁)
	7	外国語教育の認知・情意・行動的的局面と心理的諸問題に関する考察。(教科書100～112頁)
	8	学習指導要領と授業計画の関連、指導案の作成・指導展開・評価の過程に関する解説。(教科書113～131頁、参考書)
	9	中学校における英語教育の目標及び内容、指導計画、指導上の留意点等に関する解説。(教科書132～155頁、参考書)
	10	高等学校における英語Ⅰ及び英語Ⅱの目標及び内容、指導計画、指導上の留意点等に関する解説。(教科書156～174頁、参考書)
	11	オーラル・コミュニケーションA・B・C、リーディング、ライティングの目標及び内容、指導等に関する解説。(教科書174～227頁、参考書)
	12	英語教育における視聴覚機器の利用と問題点に関する解説及び批評。(教科書228～239頁)
備考		

週	内 容
1	英語教育における評価と測定、その目的と方法等に関する解説及び批評。(教科書240～252頁、参考書)
2	協同授業(チーム・ティーチング)の背景、目的、展開方法、一般的留意点等に関する説明。(教科書253～258頁、参考書)
3	中学校と高等学校における生徒の学習実態と指導上の困難点に関する解説及び考察。(教科書259～269頁)
4	教育職員免許法と教育実習の目的、内容、実施方法、留意点、反省等に関する解説(教科書270～278頁)
5	指導案の作成練習――その1(参考書、高等学校英語科教科書)
6	指導案の作成練習――その2(参考書、高等学校英語科教科書)
7	模擬授業(マイクロティーチング)――その1(参考書、高等学校英語科教科書、指導案)
8	模擬授業(マイクロティーチング)――その2(参考書、高等学校英語科教科書、指導案)
9	模擬授業(マイクロティーチング)――その3(参考書、高等学校英語科教科書、指導案)
10	模擬授業(マイクロティーチング)――その4(参考書、高等学校英語科教科書、指導案)
11	模擬授業(マイクロティーチング)――その5(参考書、高等学校英語科教科書、指導案)
12	本講義全体の総復習(教科書、参考書、高等学校英語科教科書、指導案、ノート等)
備考	受講学生は、必ず指定の頁を予習し、英語教育の目的と実情に関する問題意識を持って授業に出席し、発表や討論等の授業活動に積極的に参加すること。

参考文献： 和田稔、小池生夫編 『高等学校指導要領の展開』 明治図書

評価方法： 評価は、出席状況、授業活動への参加度、指導計画その他の提出物と定期(提出課題、試験等) 試験の結果等による。

フランス語科教育法

担当者：井上 たか子 研究室：[402]

テキスト：特になし。適宜プリントを配布する。

目 標：中学・高校におけるフランス語教育に携わる者にふさわしいフランス語能力の養成と、フランス語教授法の理論と実践を目指す。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	良い授業、悪い授業。これまで受けてきた外国語教育を振り返りながらディスカッションする。
	2	フランス語教育の目的(1) ディスカッション。
	3	フランス語教育の目的(2) 教師によるまとめ。
	4	良い教科書、悪い教科書(1) これまでに会った教科書について、感想を話しあう。分析するべきポイントの発見。
	5	良い教科書、悪い教科書(2) 教科書の分析のためのgrilleの作成。
	6	教授法の歴史(1)
	7	教授法の歴史(2)
	8	教授法の歴史(3)
	9	Actes de parole について
	10	simulation globale (1) その位置づけ
	11	simulation globale (2) 既成の教材の紹介。
	12	simulation globale (3) 初級用教材の作成例。
備考		

週	内 容
1	教材の作成（1）何を教えるか。文法項目とActes de parole の選択。
2	教材の作成（2）グループに分かれて、1時間の授業に相当する教材の作成。 前回での選択にもとづいて。
3	教材の作成（3）つづき。
4	模擬授業（1）グループ別に発表形式で行う。
5	模擬授業（2）つづき
6	模擬授業（3）つづき
7	模擬授業（4）反省、意見交換。教案の作り方。
8	フランス文化について（1）フランスの学校教育についてのビデオを観る。 （version française）
9	フランス文化について（2）学生の希望するテーマに応じたビデオを観る。 （version française）
10	フランス文化について（3）フランス語の背景にあるcomportementの相違について。
11	ビデオを使った授業について（1）8～9回で観たビデオの授業への利用の仕方を考える。
12	ビデオを使った授業について（2）
備考	

評価方法：授業への参加度を重視する。

（提出課題、試験等）前後期各1回のレポート提出。

社会科教育法

担当者：小川 一郎

テキスト：文部省『中学校指導書・社会編』大阪書籍

小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院

目 標： 社会科出発時の理念、その後の変容を考察し、現行の社会科学学習指導要領について説明し、授業の理論・方法など具体的に理解できるようにする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	第1回目の授業では、年間の社会科教育法の講座の概要説明と戦前の修身、歴史、地理等の授業の内容と方法について説明する。
	2	第2回目の授業では、戦後の日本歴史、地理、修身の授業停止、新しい科目として社会科が出発するまでの経過や理念について説明する。
	3	第3回目の授業では、社会科の内容（戦後初期の社会科）について説明する。
	4	第4回目の授業では、社会科教育の方法として、社会科スタート時、支配的だった問題解決学習の理論と実際について説明する。
	5	第5回目の授業では、初期社会科への学力低下についての批判と、当時の学力論争について説明する。
	6	第6回目の授業では、社会科の学習指導要領の改訂を追い、その変遷について説明する。
	7	第7回目の授業では、平成元年度の学習指導要領（社会科）の改訂の趣旨、改訂の要点について説明する。（教科の改訂の要点）
	8	第8回目の授業では、地理的分野、歴史的分野の改訂の要点について説明する。
	9	第9回目の授業では、公民的分野の改訂の要点、教科の目標について説明する。
	10	第10回目の授業では、地理的分野、歴史的分野の内容について説明する。
	11	第11回目の授業では、公民的分野の内容と指導計画の作成と内容の取り扱いについて説明する。
	12	第12回目の授業では、現代の民主主義の課題について、2、3あげ、その取り扱い方について説明する。
備考		

	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業では、後期の授業について、実践的指導力の向上のための講座であること、その概要について説明する。
	2	第2回目の授業では、社会科の授業づくりに際して、「教育内容」と「教材」と「授業過程」について、事例をあげて説明する。
	3	第3回目の授業では、授業案の作り方について、事例をあげて説明する。その際の教材研究とは何か、授業方法について説明する。
	4	第4回目の授業では、中学校社会科の教科書を参考に実際に授業案作成の計画を立てさせ、次回までに授業案を作成させる。
	5	第5回目の授業では、作成した授業を持参させ、学生個々に自分の作成した授業案について説明させる。
	6	第6回目の授業では、人数にもよるが、前回に続いて学生個々に授業案の説明をさせ、全体について講評する。
	7	第7回目の授業では、実際に作成した授業案について、模擬授業を行う（地理的分野、歴史的分野を各40分で行う）。
	8	第8回目の授業では、前回に引き続き、公民的分野の模擬授業を行う。残った時間で模擬授業講評を行う。
	9	第9回目の授業では、新学習指導要領や新指導要録を背景にいわれている新学力観について社会科との関連で説明する。
	10	第10回目の授業では、新学力観に立った授業として、ディベートを取り入れた授業について説明する。
	11	第11回目の授業では、テーマをたててディベートを実際に行わせる。
	12	第12回目の授業では、社会科授業について総括を行う。社会科の特質と教育方法で力点をおかねばならないことを明らかにする。
備考		

地理・歴史科教育法

[地理(前期)]

担当者：犬井 正

研究室：[719]

目 標：高等学校における地理・歴史科教育の中の地理に関する教科教育法の講義である。地理は第二次世界大戦後に社会科という教科の一科目として誕生して以来約40年間を経てきた。しかし、今次の文部省教育課程の改訂により、新しく「地理・歴史科」という教科が誕生し、地理は日本史、世界史とともにその一科目となった。地理教育史および、地理教育の方法、地理教育の実際、地理教育の課題などについて講述する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

週	内 容
1	本講義の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。
2	第二次世界大戦後の地理教育のあゆみ。アメリカの社会科教育の影響、および日本の小・中・高等学校の地理教育の関連を中心とする。
3	社会科教育における地理教育と、新しい地・歴史科における地理教育の相違について。文部省高等学校学習指導要領を中心として考察する。
4	学習指導要領と教科書(地図帳を含む)の持つ意味について。「教科書で教えるのか、教科書を教えるのかの論争」を考察する。
5	地理教育の実際(1) 地図(読図・描図)教育の基礎的方法について。
6	地理教育の実際(2) 自然地理学習の意義を理科教育、特に地学教育との関連と相違を通して考察する。
7	地理教育の実際(3) 野外観察、野外調査、地域調査の計画と指導法について。
8	地理教育の実際(4) 地理的情報の活用と効果的な地名学習の方法について。
9	地理教育の実際(5) 系統地理の学習と地誌学習の相違および学習効果について。
10	地理教育の実際(6) 異文化理解と国際理解の方法。時事問題の取扱い方に関連させながら講述する。
11	地理教育の実際(7) 年間指導計画と評価の方法について。
12	講義のまとめにかえて、現在日本の地理教育が直面している課題について後述する。
備考	

参考文献：教科書は特になし。参考文献リストは第2週の講義時に配布する。

評価方法：授業への貢献度とレポートの結果を総合的に判断する。

(提出課題、試験等)

〔歴史(後期)〕

担当者：古川 堅治

研究室：〔718〕

テキスト：なし

目 標： 本講座は、歴史上のいくつかの項目(事項)をとりあげて、それらが高校などのいわゆる教科書でどのようにとりあげられているか、そしてまた、現在の学界ではどのようなレベルにまで研究が進んでいるかを考えながら、教科書認識とのズレ、一般常識とのズレを追求していく。受講希望者は、「歴史」「教える」ということの「コト」の重大さを認識して「主体的」に受講して欲しい。講義は討論形式、テキストなどというものはない。「知識」を身につけるというよりも、いかに「考える」かということの主眼とする。自覚的勉強の便宜のため、年間講義計画と参考文献をあげておく。

年間予定

	週	内 容
後 期	1	「なぜ歴史を学ぶのかー未来へのメッセージ」 参考文献：土井正興『世界史的視野のなかの歴史教育』(日本書館、1991)
	2	「歴史のこわさと面白さー謎を追うー」 参考文献：中村政則『歴史のこわさと面白さ』(筑摩書房、1992)
	3	「定説の危うさー“ドーリア人侵入”ー」 参考文献：Robert Drews. "The Coming of Greeks" 1988; John Chadwick, "Who were the Dorians?" Parola del
	4	「偏見と現実とー‘一国史’と‘世界史’ー」 参考文献：吉田悟郎『自立と共生の世界史学ー自国史と世界史ー』(青木書店、1990)
	5	「歴史教育におけるアジア史ー東アジアと自国史ー」 参考文献：比較史・比較歴史教育研究会編『自国史と世界史ー歴史教育の国際化をもとめて』(未来社、1985)
	6	「V I D E O : 日韓歴史教科書論争」 参考文献：高崎宗司編『歴史教科書と国際理解』(岩波ブックレットNO. 231, 1991)
	7	「歴史教育におけるヨーロッパ史ー世界史のなかのヨーロッパ史ー」 参考文献：西川正雄編『自国史を越えた歴史教育』(三笠、1992)
	8	「歴史教育における人物学習・地域学習・史料学習・史料操作」 参考文献：安田元久監修『歴史教育と歴史学』(山川出版社、1991)
	9	「模擬授業Ⅰ」
	10	「模擬授業Ⅱ」
	11	「模擬授業Ⅲ」
	12	「歴史を学校でどう教えるかーまとめにかえてー」 参考文献：永原慶二・山住正巳『歴史を学校でどう教えるか』(岩波ブックレットNO. 90, 1987)
備 考		予備日 (V I D E O シリーズ授業「社会」ー社会のしくみ歴史ー)

参考文献：

評価方法： 出欠に関しては最初の授業日を明らかにする。成績評価はレポートで(提出課題、試験等) 行なう。テーマは後日発表。但し、「模擬授業」を希望する人はそれをもってレポートに替える。

公民科教育法

担当 者：小川 一郎

テキスト：文部省『高等学校学習指導要領解説・公民編』実教出版

小川一郎『在り方生き方指導の理論と実践』清水書院

目 標： 戦後の公民教育がどのような考え方で出発したかを明らかにし、その後の
変遷と、公民科の目的・内容・方法など具体的に理解できるようにする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	第1回目の授業では、年間の公民科教育法の講座の概要説明と戦前の公民教育の特色について説明する。
	2	第2回目の授業では、戦後の公民教育について審議した公民刷新委員会の内容や新教育指針などから、新しい公民教育の目指すものについて説明する。
	3	第3回目の授業では、公民教育、公民科教育の意義や目的を正しく理解するために、公民がどのような意味をもつかを公民として資質などから考察する。
	4	第4回目の授業では、公民教育が知識の認識にとどまらず、技能・能力・態度などを育成させねばならず、そのための教育法などについて考察する。
	5	第5回目の授業では、平成元年度の学習指導要領で、社会科が再編成され、公民科が設置された理由、社会的背景などを説明する。
	6	第6回目の授業では、公民科の教育目標、内容構造について説明する。
	7	第7回目の授業では、「現代社会」の構成と展開について説明する。
	8	第8回目の授業では、「倫理」の構成と展開について説明する。
	9	第9回目の授業では、「政治・経済」の構成と展開について説明する。
	10	第10回目の授業では、人間としての在り方生き方に関する教育を公民科の各科目でどのように実践するか考察する。
	11	第11回目の授業では、世界の主な国の公民教育について考察する。
	12	第12回目の授業では、公民教育が当面する課題について考察する。
備考		

週	内 容
1	第1回目の授業では、後期の授業について、実践的指導力を育成するための講座であること、その概要について説明する。
2	第2回目の授業では、新しい学習指導要領や指導要録から引き出される新しい学力観と公民科教育の関連について説明する。
3	第3回目の授業では、論理的思考力や表現力を育成する公民科教育の方法について説明する。
4	第4回目の授業では、前時の論理的思考力、表現力を育成する方法として、ディベートが有効であることを示し、ディベートについて説明する。
5	第5回目の授業では、次回の講座でディベートを実際に行うことを知らせ、そのテーマについて説明、役割分担などを決め、分担ごとの話し合いをさせる。
6	第6回目の授業では、実際にディベートを行わせる。
7	第7回目の授業では、ディベートをどのような授業に取り入れるか、ディベートを行う授業についての授業案について説明する。
8	第8回目の授業では、授業案を実際に作成させる。
9	第9回目の授業では、前の時間作成した各自の授業案を説明させる。「倫理」「現代社会」「政治・経済」のそれぞれが発表されるようにする。
10	第10回目の授業では、「倫理」と「現代社会」の模擬授業を行う。
11	第11回目の授業では、「政治・経済」の模擬授業を行い、残された時間、模擬授業について検討させ、講評する。
12	第12回目の授業では、公民科の授業について総括を行い、公民科の特質と教育方法における重要な点を明らかにする。
備考	

評価方法：未定

(提出課題、試験等)

道徳教育の研究

担当 者：鳥谷部 志乃恵 研究室：[717]

テキスト：『共にまなぶ道徳教育』 村井実・遠藤克弥編著 川島書店

目 標： 本講義は、道徳の基礎概念や道徳教育の歴史についての学習を通して、学校における道徳教育の理解と実践への関心を形成することを目的とする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期 後 期	1	本講義の進め方と参考文献について説明。 1. 道徳とは何かについて考察する。
	2	2. 道徳教育の意義について考察する。
	3	(1) 道徳教育の倫理的な基礎 (2) 道徳教育の心理学的な基礎
	4	
	5	3. 道徳教育の変遷 (1) 日本人と伝統的な道徳思想
	6	(2) 明治期の道徳教育 (3) 大正、昭和（終戦まで）の道徳教育 (4) 戦後の道徳教育
	7	
	8	
	9	4. 学校における道徳教育の構造 (1) 教科指導と道徳教育
	10	(2) 特別活動と道徳教育 (3) 「道徳の時間」における道徳教育
	11	
	12	5. 道徳教育と教師
備考		

参考文献：

評価方法：

(提出課題、試験等)

特 別 活 動

担 当 者：佐藤 利明

テキスト： プリント配布

目 標： 学習指導要領第1章総則の教育課程編成の一般方針3項目と特別活動の目標を理解し、学校・学年・学級の目標達成のため、具体的分野・実践活動について展開する。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

	週	内 容
前 期 後 期	1	(1)期中の講義内容の概要説明。(2)学習指導要領とは何か。(3)学習指導要領総則について。(4)中学校・高等学校教育の一貫性とそのねらいについて。
	2	(1)指導要領・学校教育目標と特別活動のかかわりについて。(2)目的と目標の概念。(3)特別活動の目標と4分野について。
	3	(1)心の教育の充実、□.基礎・基本の重視と個性教育の推進等4つの柱について。(2)学級（ホームルーム）活動の学校教育に於ける機能の重要性について。
	4	学級活動の指導計画の実際（1校時・短時間活動、協同・奉仕活動をとおしでの好ましい人間関係（対教師・生徒間）を育成する）。
	5	学級における生徒の係活動、（問題意識をもたせ、係の必要性を感じとらせ、その種類と担当者を決める等と実践活動）について。
	6	学級活動の実際と評価、学級目標は生徒の実態に即して、成し得る目標を設定させ、達成感・成就感を味わせ自信をもたせる教育の場の展開。
	7	生徒会活動の意義と組織運営について、全校生徒が学校生活を豊かで充実したものにする自覚をもたせ、役員だけの生徒会にならない工夫等。
	8	生徒会活動と学年・学級活動、生徒会活動の年間指導計画の実際と評価、個別を生かす生徒会活動、各委員会の特色ある活動の展開、評価と次年度発展へ。
	9	クラブ活動の意義と組織運営、クラブ活動と部（課外）活動、クラブ活動の問題点と解決策、年間指導計画、及び各時指導計画の実際。
	10	学校行事は、全校又は学年を単位として行われる総合的・体験的な活動であることと、学校生活が豊かで充実したものにする活動等の理解をする。具体例。
	11	学校行事は人間としてのあり方、生き方の指導の場である。行事の5種類の具体的分類。年間指導計画と地域特性。全教職員参加と協力。行事の精選。
	12	(1)特別活動と進路指導（学級活動を中心として）。(2)まとめ、(3)レポート課題発表。
備考		

評価方法：レポートの評価と定刻出席

（提出課題、試験等） 但し止むをえず欠席の場合は、事前に欠席届と作文（課題・字数はその都度提示）を提出する。事後の場合はすみやかに同様提出する。

レポート提出締切日 前期：7月23日（土）、後期：1月23日（月）教務課宛

特 別 活 動

担 当 者：藤井 光男

テキスト：プリントを配布

目 標： 中学校・高等学校における特別活動の目標を通して、指導の原理や方法を学級活動（H. R活動）係、委員会活動、クラブ、部活動、学校行事等を理解させ、特別活動を果す役割とその課題を明らかにしていきたい。

年間予定

（ ）曜日：（ ）限：（ ）棟（ ）

週	内 容
前 期 後 期	1 第1回目は教育過程の改善に伴う要点と学校教育と特別活動、及び教育過程の構造について考察する
	2 第2回目は、教科教育の成立と発展について、学習指導要領の変遷を追いながら、特別活動の成立発展について学ぶ
	3 第3回目は、戦前の自治活動と戦後における特別活動の成立、自由研究、各教科以外の活動について考える
	4 第4回目は、特別活動の教育的意義と生徒指導、生活指導の現状について考える。（最近の問題行動を併行して）
	5 第5回目は、特別活動の充実を果たすための内容の吟味について考える。中高の特別活動を比較しながら深める
	6 第6回目は、集団の指導について考える。（意義・特質・発達・機能や集団づくりの目的と方法等）
	7 第7回目は、学級活動・ホームルーム活動の指導について考える。（教育的意義、学級とホームルーム集団の形成・運営との組織等について）
	8 第8回目は、自治的活動の指導について考える（意義・編成・指導及びクラブ活動をめぐる問題等）
	9 第9回目は、係、委員会活動の指導について考える（意義・形態・指導と問題点等について）
	10 第10回目は、クラブ・部活動の編成と指導について考える。（意義・編成・指導と問題点等について）
	11 第11回目は、学校行事の意義と課題と運営について考える。（意義・計画・運営や各行事の指導方法論について）
	12 第12回目は、特別活動の課題と今後の展望について考える
備 考	

評価方法：評価は前後期各1回レポートと授業への貢献度により決定する。特に今日的（課題、試験等）課題等を講義の中で考察し、実践性のあるものとしていきたい

レポート提出日 前期：7月23日、後期：1月23日 教務課宛

生徒指導法

担当者：鳥谷部 志乃恵 研究室：[717]

テキスト：

目 標： 本講義は、生徒指導についての基礎的・基本的な学習を通して、学校教育の抱える現実と課題に対応し得るような、理論的かつ実践的構えを形成することを目標とする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	本講義の進め方、提出を義務づけるレポート、参考文献等について説明する 1. 生徒指導の概念
	2	(1) 生徒指導の意味 (2) 生徒指導の必要（現代学校教育と生徒指導、教育の本質化の要求）
	3	(3) ガイダンス運動
	4	2. 生徒指導の本質 (1) 生徒指導の機能（適応と不適応、主体－環境体制の調整）
	5	(2) 生徒指導の目的（直接的目的と間接的目的）self-directionの能力の育成
	6	(3) 方法上の原則（援助的指導、personal help）
	7	3. 生徒指導の計画 (1) 教育課程と生徒指導（教育指導、特別活動、「道徳」との関係について）
	8	(2) 生徒指導の構想（諸領域の関連と統合、子ども研究と子ども理解）
	9	4. 生徒指導の方法 (1) 集団指導（group guidanceとwe-feeling）
	10	
	11	(2) 個別指導（カウンセリングの理論と技術）
	12	5. 学校教育相談と進路指導について
備考		

参考文献：

評価方法：

（提出課題、試験等）

生徒指導法

担当者：佐藤 利明

テキスト： プリント配布

目 標： 生徒指導は、中学校・高等学校教育で今日的重要な課題である。学校教育のあらゆる活動において中軸となり全教職員の共通理解のもと全生徒を対象に実践される統合的活動である。理解を深めるため実際について展開する。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
前 期	1 (1)講義概要説明、(2)生徒指導の意義について、生徒指導は、個別的で発達段階に応じた教育を基礎として、学習指導を初め場の教育として行われる。
	2 生徒の希望・能力・適性、興味と人格の特性を理解し、現状を基礎にした教育であり、非行対策ではないことの理解。
	3 生徒の社会生活の資質・態度・行動を高める等具体的実地的な活動として進めることの理解と具体例。
	4 校内指導体制の確立、校務分導上の役割と、全教職員が共通理解のもと、一人一人の生徒を指導・援助すること等。
	5 生徒指導と特別活動、特別活動の領域の学級活動が、その性格・内容から中核的なこととなる実際について。
	6 生徒理解に始まり生徒理解に終わるといわれる生徒指導について。生徒理解の方法と、一人一人の生徒への対応（特に共感的理解を中心に）。
	7 問題意識をもって生徒に接し、それぞれの生徒の問題点を把握し、信頼関係を深め、指導援助する。
	8 進路指導、学校教育の重要な一分野、学校教育法・中・高校指導要領の解説と、校内・校外における活動の実際、本人・保護者を交えての懇談等。
	9 学校教育相談の特質、教育相談の方法、教育相談室の雰囲気と運営、青少年問題に関する他機関との連絡・依頼等。
	10 反社会的問題行動、非社会的問題、問題行動の実際と対応の実際。
	11 反・非社会的問題行動の兆候とみられる具体例、保護者ともども人間的ふれ合いをもち指導する具体例。
	12 (1)学校の生徒指導全体構想の実際、(2)全体のまとめ、(3)レポート課題提示。
備 考	

評価方法：レポートの評価と定刻出席。

(提出課題、試験等) 但し止むをえず欠席の場合は、事前に欠席届と作文(課題・字数はその都度提示)を提出する。事後の場合はすみやかに同様提出する。

レポート提出締切日 7月23日(土) 教務課宛

生徒指導法

担当者：藤井 光男

テキスト： 適宜プリントを配布する

目 標：近年の不応現象や問題行動の多発し重要な教育課題となっている。これらの問題を考えながら学校における生徒指導の在り方や、果たす役割、機能についてよりよい教育実践者への資質向上の糧とさせたい。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

週	内 容	
前 期	1	・学校教育と生徒指導の問題について考えると共に、青少年問題の諸相について考察する
	2	・生徒指導の意義と方法原理について考える
	3	・生徒指導の領域と特別活動・道徳教育との関連について考える
	4	・生徒指導・進路指導・教育相談の定義について考える
	5	・生徒指導の組織と運営について考える
	6	・生徒指導の生徒理解について考える
	7	・生徒指導の基礎理論について考える
	8	・生徒指導の計画と方法について考える
	9	・学校教育相談の基礎理論について考える
	10	・学校教育相談の計画と方法について考える
	11	・進路指導の基礎理論・及び計画方法について考える
	12	・生徒指導の充実と課題について考える
備 考		

評価方法：評価は前後期各1回レポートと授業への貢献度により決定する。特に今日的(提出課題、試験等)課題等を講義の中で考察し、実践性のあるものとしていきたい

レポート提出 前期：7月23日、後期：1月23日 教務課

生徒指導法

担当者：福島 哲夫

テキスト：

目 標：生徒との信頼関係の樹立、生徒や父兄、その他の関係者と協力して問題解決に当たる姿勢の確立を目的とする。そのために「よりよい聴き方」と「優しさ」と厳しさのバランスの取れた指導法の習得をめざす。また、実習を通じて各人の偏りや持ち味などへの自己理解も深めたい。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

週	内 容
前 期	1 第1回目の授業では半年間の講義概要の説明と、生徒指導における「聴く」ことの重要性について考える。
	2 第2回目の授業では「聴く」ということについてさらに考察し、受講生同志の話を「聴く」実習をもとに話し合う。
	3 第3回目の授業ではカウンセリング事例のテープを聴き、その要点について考える。
	4 第4回目の授業では「不登校ぎみの中学生の事例」を読み、事例への理解を深め、さらにロールプレイを通じて、どのように対応したらよいかを考える。
	5 第5回目の授業では前週の実例についてさらにロールプレイをかさね、「聴き方」「関わり方」の要点を身につける。
	6 第6回目の授業では「反抗的な生徒の実例」を読み、考察と実習を深める。また、受講生の自己理解のために簡単な心理テストを実施する。
	7 第7回目の授業では前週の実例の復習と生徒理解のための精神医学の基礎を講義する。
	8 第8回目の授業では「孤立しがちな生徒の実例」を読み、事例に即して考察と実習を深める。
	9 第9回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察と実習を深める。
	10 第10回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察と実習を深める。
	11 第11回目の授業ではさらに別の事例に即して、考察と実習を深める。
	12 第12回目の授業ではこれまでの授業のまとめとレポートのテーマ発表を行なう。
備 考	

評価方法：評価はレポートと授業への参加態度によって決定する。

教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)

担当者：小川 一郎

テキスト： 適宜、プリント配布

目 標： 教職について学生各自が十分な認識をもつことができるようにし、教育実習に目的意識をもつてのぞむことができるようにする。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
後 期	1 第1回目の授業では、この講座が制度化された意義やどのようなことを行うかその概要について説明する。
	2 第2回目の授業では、教師としての資質として何が必要か、どのようなことに努めるべきか、教師として身につけるべきことを説明する。
	3 第3回目の授業では、教育実習の意義・目的について具体的に説明する。また先輩の実習生が実習後どのような感想をもったか説明する。
	4 第4回目の授業では、教育実習全般にわたっての心得と準備について説明する。
	5 第5回目の授業では、教育実習の形態に(1) 観察、(2) 参加、(3) 教壇実習があること、またそれぞれについて留意すべきことを説明する。
	6 第6回目の授業では、教育実習の内容についてどのようなことがあるか説明する。
	7 第7回目の授業では、授業案の作成のしかた、研究授業への対応、教材研究について説明する。
	8 第8回目の授業では、学級担任としての学級経営と学級経営上の諸問題について説明する。
	9 第9回目の授業では、学級担任としての生徒指導について説明する。 最近、登校拒否など対応がむずかしくなっている。
	10 第10回目の授業では、生徒理解の方法と生徒とのコミュニケーションをどのように図るか説明する。
	11 第11回目の授業では、教師としての研修について説明する。
	12 第12回目の授業では、教員としての勤務や服務について説明する。
備 考	

教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)

担当者：佐藤 利明

テキスト： 教育実習の指針。プリント配布

目 標： 教育行政及び教育課程関係の基礎・基本的事項と、魅力ある授業の展開・人間関係についての要点、さらに教師の日常活動等、教育実践の実際に即した対応について理解し、一層実のある感動ある教育実習に資する。

年間予定 () 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
1	(1)講義内容の概要説明。(2)学校教育に関する関係法令規則。(3)目的と目標。(4)都道府県市町村教育委員会と学校。
2	(1)任命権者と服務監督、(2)教育職員としての専門性(教職感、教師像、職務内容、研修(教特法・地公法・学校管理規則))
3	中学校教育と高等学校教育。学習指導要領とは、総則のねらい、発達段階に応じた一貫性のある教育、その具体的内容。
4	教育課程の編成と実施。学習指導要領と教育課程編成要領と学校の実態に応じた教育課程、年間指導計画と毎時の指導案のつながり等の実際。
5	教材研究と指導案。適切な指導過程を構成するため、よい授業をするため、何を教えるかよく練りあげ、生徒の実態に即した内容で指導案を作成する。
6	学習指導の実際、指導方法(動機づけ、発問の要点、学習形態、板書事項、評価) 考える時間を与える。成就感、成功感を与える工夫等。
7	教師の一日、教師自らの姿勢を正して生徒を指導する。挨拶にはじまり出勤遅刻はしない。整理整頓、鍵締り、火気点検後の退勤までの活動について。
8	職員会議：設置の根拠と目的、学年会：学年・学級経営をより効果的に進める場、教科会：教科の計画・連絡調整・研修等
9	生徒指導：心の教育の充実ほか3項目の目指す実際、道徳教育：人間としての在り方生き方等、特別活動：集団の一員としての自覚、についての実際。
10	学級経営(ホームルーム)・学年・学校経営と特別活動のかゝわり、生徒と心を通い合わせる多面的な理解。所属感・存在感をもたせる教育等。
11	学級事務と諸表簿。主な学級事務、特に関連の深い表簿。
12	(1)教育実習についてのまとめ。(2)今日的教育の課題。(3)レポート課題提示。
備考	

評価方法： レポートの評価と定刻出席。
 (提出課題、試験等) 但し止むをえず欠席の場合は、事前に欠席届と作文(課題・字数はその都度提示)を提出する。事後の場合はすみやかに同様提出する。
 レポート提出〆切日：1月23日(月)教務課宛

教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)

担当者：藤井 光男

テキスト： 適宜プリントを配布する。

目 標： 教育実習に生きて働く力となる実践的な教育理念や学校現場の期待する諸問題や実習の心構え等について深い理解と教育実習の求める目標を達成できる講義をしていきたい。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
前 期	1 第1回目は、教育課程改善の趣旨と現在に多発している教育問題について考察する。
	2 第2回目は、教育問題に対する受けとめ方とその展望について考察し、教育現場における対処について考える。
	3 第3回目は、教育関係法規及び教職の専門性について考える。
	4 第4回目は、学習指導要領と教育過程の編成について考える。
	5 第5回目は、学習指導と学習指導案の立案方法について学ぶ。
	6 第6回目は、学習指導の技術とその方法、評価について学ぶ。
	7 第7回目は、学校における教師の一日について学ぶ。 (教科・領域・その他の活動)
	8 第8回目は、道徳教育と道徳の時間について実際の授業のつくり方を学ぶ。
	9 第9回目は、特別活動、学級経営、HR経営について学ぶ。
	10 第10回目は、生徒指導と他教科、領域の関連について学ぶとともに、他の教育活動について考える。
	11 第11回目は、教育実習の心構えと事後の在り方について学ぶ。
	12 第12回目は、全体のまとめと課題を出題する。
備考	

評価方法：評価は前後期各1回レポートと授業への貢献度により決定する。特に今日的(異出課題、試験等)課題等を講義の中で考察し、実践性のあるものとしていきたい。

レポート提出締切日 前期 7月23日, 後期: 1月23日 教務課宛

教育思想史

担当者：鳥谷部 志乃恵 研究室：[717]

テキスト：『近代教育史』 教師養成研究会編 学芸図書株式会社

目 標： 近代における教育統制（促進）の具体的な形態である公教育思想やその制度を、古代からの通史的考察の中で吟味し、その上で現代教育の世界史的課題を考察することを目的とする。

年間予定 () 曜日： () 限： () 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	1. 古代の社会における学校と教育 (1) 原始社会における学校と教育の原初形態
	2	(2) ギリシアの社会における教育
	3	(3) ローマの社会における教育
	4	2. 西欧封建社会における学校と教育 (1) キリスト教と教育
	5	(2) 世俗的教育と大学の創設
	6	3. 封建社会の解体期における学校と教育 (1) ルネッサンス（中等教育機関の設立）
	7	(2) 宗教改革
	8	4. 市民革命期における学校と教育 (1) 公教育思想の発展
	9	(2) 各国の近代化と教育政策
	10	5. 産業革命期における学校と教育
	11	6. 公教育制度の形成
	12	7. 教育改革と現代教育の課題
備考		

参考文献：

評価方法：

(提出課題、試験等)

地理学調査法

担当者：犬井 正

研究室：[719]

目 標：地理教育においては、自然・人文に関する地域調査を重視している。本講義は文献資料による調査法のみならず、フィールドワークを実施し、地域調査の立案・指導・評価の実際について総合的に学んでいく。なお、フィールドワークは、例年、前期の定期考査終了後二泊三日で、福島県新甲子獨協大学研修所を拠点として実施している。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

週	内 容
前 期	1 本講義の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。受講者多数の場合は、第1週出席者を優先する。
	2 自然環境の調査法と利用可能資料の入手法について。
	3 同 上
	4 地図の活用法。
	5 歩測図の作成原理と作成実習。
	6 同 上
	7 同 上
	8 地域調査の計画と指導法について。 聞き取り調査法とアンケート項目の作成法など。
	9 野外調査法の実際（バス巡検、土地利用調査などのフィールドワーク、各種施設の見学）。 前期定期考査直後実施の2泊3日の実習で振り替え。
	10 同 上
	11 同 上
	12 収集資料の整理、活用と報告書の作成方法。
備 考	

参考文献：教科書等は特になし。

評価方法：実習レポートの結果および講義への貢献度を総合的に判断する。

日 本 史 概 説

担 当 者：新井 孝重 研究室：[927]

テキスト：石田田 正『中世的世界の形成』（岩波文庫）

竹内 誠（他）編『史料教巻の日本史』（東大出版）

目 標： 前期には、古代から中世の変革の「法則」を具体的な歴史叙述を読みたどるなかで学びとる。歴史を理論的、哲学的に学びたい。後期には、なるべく歴史の全体を構造的に流れをおって把握するようにしたい。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	第1回目の授業。『中世的世界の形成』という書物のあつかうテーマ、叙述の構成を紹介して、これを読書することの学問的意義を論ずる。
	2	第2回目の授業。第1章 藤原実遠（私宮田領主としての藤原実遠の所領の成立。構造、特徴を説明）
	3	第3回目の授業。第1章 藤原実遠（私田経営の破綻の必然性、初期領主実遠の没落とその跡にあらわれる東大寺の支配をみる）
	4	第4回目の授業。第2章 東大寺（Ⅰ）（古代の東大寺の財政的逼迫、畿内近国荘園としての黒田荘建設運動の様態をみる）
	5	第5回目の授業。第2章 東大寺（Ⅱ）（東大寺の公領侵略にあたっての独特の古代的論理を、荘の住民の身分規定を通してみる）
	6	第6回目の授業。第2章 東大寺（Ⅲ）（古代都市奈良に所在する東大寺は本質的に農村と敵対する法をもっていた。古代法と中世法の二つの法をみる）
	7	第7回目の授業。第3章 源俊方（Ⅰ）（農村の支配者源俊方について、彼の家系、生活の形態、精神、感情などをみる）
	8	第8回目の授業。第3章 源俊方（Ⅱ）（源俊方とその一統からなる在地の武士団を、存在構造・惣領制などを通してみる）
	9	第9回目の授業。第3章 源俊方（Ⅲ）（源俊方は農村の領主的支配権を守るため東大寺と戦って敗れる。その後農村の武士は封建的領主への成長に失敗
	10	第10回目の授業。第4章 黒田悪党（Ⅰ）（武士の敗北のあと、東大寺は悪僧を荘園に下向させて武装統治にあたる。東大寺によって古代は再建された）
	11	第11回目の授業。第4章 黒田悪党（Ⅱ）（荘園支配の矛盾に遭遇する寺家は新しい統治方式を生みだすが、それがいかなるもであったかをみる）
	12	第12回目の授業。第4章 黒田悪党（Ⅲ）（東大寺に反抗する在地の武士が悪党としてしか存在しえなかったことの意味を考える。）
備 考		

	週	内 容
後 期	1	第1回目の授業。律令国家の構造（律令制のしくみと矛盾と動揺の道筋をわかりやすく説明）
	2	第2回目の授業。摂関政治と院政（摂関政治の特質とそのあとにくる院政のありようを、政治史的に概観する。）
	3	第3回目の授業。荘園制と武士団（土地制度に注意しながら、武士が発生する社会的土壌をさぐる。また、本来武士とは何かということも考える）
	4	第4回目の授業。鎌倉幕府（武家政権としての鎌倉幕府について、将軍、執権などの地位と機能について論じ、さらに得宗専制政治についても展望する）
	5	第5回目の授業。南北朝内乱と室町幕府（内乱の前提から説きおこして、元弘内乱、建武新政、新政崩壊、室町幕府成立にいたる過程を説明する）
	6	第6回目の授業。大名領国の展開（守護領国とはいかなるもので、それと国人層とはどのような関係にあるか、また戦国大名の台頭とは、を考える）
	7	第7回目の授業。惣と土一揆（中世の民衆の結集のしかたと、かれらの闘いについて考える。惣とは何か、土一揆とは．．．具体的に説明したい）
	8	第8回目の授業。近世社会の成立（信長政権、秀吉政権、徳川政権について、歴史的な過程をふくめて説明する）
	9	第9回目の授業。対外関係と領国（西欧文化の到来が日本に与えた影響、なぜキリスト教を徳川氏は禁じたのか、「領国」の意味について説明する）
	10	第10回目の授業。幕藩制社会（幕府と藩の関係、社会をなり立たせている身分原理について、なるべく具体的に説明する）
	11	第11回目の授業。近世社会の動揺（Ⅰ）（幕政、藩政の改革についてみる。また改革を余儀なくされた政治、経済の矛盾はどこにあったかをみる）
	12	第12回目の授業。近世社会の動揺（Ⅱ）（商品作物生産の盛行と農民層の分解、流通・物流の変化を都市の問題などを通して考える）
備考		

評価方法：評価は、後期の試験の成績にもとづいて行うものとする。

（提出課題、試験等）

外国史概説Ⅰ・Ⅱ [東洋史概説]

[外国史概説Ⅰ]

担当者：熊谷 哲也

テキスト：板垣雄三・佐藤次高編『概説イスラーム史』有斐閣選書 1986。

目 標：前期 [外国史概説Ⅰ] では初期イスラーム史を中心に、イスラーム世界の成立をさぐる。後期 [外国史概説Ⅱ] では中世から近現代にかけてのイスラーム社会の様相について、毎回トピック形式で視点を変え、理解を深める。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	イスラーム史を世界史的な視野の中に位置付ける試みと論争について説明する。また、イスラーム教の基本原理を理解する。
	2	イスラーム教が誕生する以前の世界について考える。ユダヤ教とキリスト教に関する基礎知識が必要である。
	3	イスラーム教が誕生する前後のアラビア半島の歴史について考える。
	4	預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、商業都市メッカの社会との関連について考える。
	5	預言者の死後、彼の代理人であるカリフ（ハリーファ）たちがどのように選ばれたか、正統カリフ時代について学ぶ。
	6	ウマイヤ朝の歴史について考える。古典理論（ヴェルハウゼン理論）における「アラブ帝国」の意味を検討する。
	7	アッバース朝の歴史について考える。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行を検討する。
	8	イスラーム教の聖典であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐる初期思想と学問の展開について学ぶ。
	9	ウマイヤ朝・アッバース朝の時代に開花した文化や社会の様相をいくつかの視点からとらえる。
	10	アッバース朝の弱体化にともない、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について考える。
	11	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考える。アンダルス史、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパ人の歴史観を再考する。
	12	イスラーム世界における近代化前史としてオスマン朝の歴史を考える。特にカピトレーションの問題などをとりあげる。
備考		

[外国史概説Ⅱ]

	週	内 容
後 期	1	イスラーム教の基本原理について、さらに深めてくり返し説明する。後期から [外国史概説Ⅱ] として受講する者へのオリエンテーションをかねる。
	2	イスラーム世界に特有な奴隷軍人と、彼らが作り上げた封建的な軍事支配のシステムについて考える。
	3	イスラーム世界における知識人階層であるウラマーたちについて、その学問修行や政治権力との関係、社会的な役割について考える。
	4	スーフイズムと呼ばれるイスラーム神秘主義思想が、中世イスラーム世界において民衆の教化に果たした役割を考える。
	5	イスラームの儀礼について考える。礼拝や断食など、具体的な儀礼とその方法について説明する。
	6	イスラーム法（シャリーア）について考える。古典的な法理論書の一部を紹介して、具体的な内容にふれる。
	7	イスラーム社会における、人々の生活と信仰、風土や衣食住などについても考える。
	8	イスラーム世界が誇る学問的成果とその蓄積について考える。ヨーロッパにおける、いわゆる「十二世紀ルネサンス」の再考についてもふれる。
	9	イスラーム世界の文学、とくにアラブ文学について、古典と現代文学を含めて考える。ノーベル賞作家ナギーブ・マハフーズの短編を読む。
	10	イスラーム世界の近代化について考える。さまざまな改革運動が展開するなか、モダニズムとファンダメンタリズムのゆくえを追う。
	11	今世紀のイスラーム世界について考える。民族主義、社会主義、第二次世界大戦後の軍事戦略機構、パレスチナ問題などについて検討する。
	12	オリエンタリズムの問題を考える。前期第1回で説明した論争に戻るわけだが、諸君は以前とは違い様々な観点から具体的な見解を持つはずである。
備考		

参考文献： 授業で指示する。

評価方法： 東洋史概説として通年受講する者は前期レポート（後期第1回の授業時に（提出課題、試験等）提出）。後期は筆記試験。

外国史概説Ⅰ及びⅡとして受講する者は、それぞれ前期・後期ともに筆記試験（レポートは無し）。

外国史概説Ⅲ・Ⅳ [西洋史概説]

[外国史概説Ⅲ]

担当者：赤井 彰

テキスト：大下尚一他編 「西洋の歴史」(近現代篇) ミネルヴァ書房

目 標：十五世紀から十九世紀初頭までの欧米史。1980年代以降の世界の大きな変化に応じ、この時代の考え方も変りは始めているし、この時代の日本についても新しく見えてきているものが多い。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	「西洋史」という日本特有の教科。時代区分。社会科の世界史。
	2	ルネサンスと大航海時代。
	3	公会議(宗教会議)から国際会議へ。三十年戦争。
	4	王権神授説と等族議会。
	5	イギリス革命。反カトリックと囲い込み。
	6	オーストリア、プロイセン、ロシア。
	7	ジョン・ロー。南海泡沫。
	8	イギリス産業革命。イングランド銀行。
	9	大西洋革命。
	10	フランス革命。
	11	ナポレオン。
	12	予備。
備考		前期と同じ。

[外国史概説Ⅳ]

	週	内 容
後 期	1	十九世紀の特長。進化論と楽天主義。
	2	ナポレオン以後。
	3	イギリス選挙法改正。
	4	明治維新。
	5	帝国主義列強。
	6	中南米。従属理論。
	7	日露戦争と大正時代。
	8	第一次大戦。
	9	ロシア革命とファシズム。
	10	第二次大戦。
	11	冷戦。
	12	予備。
備考	予備知識が少ないと思われる事項については、少くとも百科事典などで自発的に調べるよう要求することがある。例：高橋是清、ジョン・ローなど	

参考文献：その都度示す。

評価方法：試験。何を持って来てもよい。自分の文章で書いてもらう。

(提出課題、試験等)

地 理 学 概 説

担 当 者：山本 正三

研究室：[734]

テキスト：『世界の自然環境』 山本（他）著 大明堂

目 標： 地理学は、地球の表面（世界）が現在どのようなになっているかを、地域的に理解することをめざす。地表を形づくる自然とそのうえでくりひろげられる人間の活動や生活状態がその主内容になるので、これらについての基礎的知識を学習する。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
前 期	1 自然のしくみ 1. 地形の諸類型, 山のでき方. 地形の発達. 大地形と小地形
	2 2. 侵蝕地形と堆積地形
	3 河川による侵蝕地形と堆積地形 氷河による侵蝕地形
	4 乾燥地形 (砂漠の地形, 風の侵蝕作用)
	5 3. 構造地形 火山地形, 断層地形
	6 4. 世界の大地形 世界の大山脈と平野の配置, プレートテクトニクスと大陸の移動
	7 5. 世界の気候地域 気候地域の形成要因, 気候と降水量と風
	8 気候の諸類型と世界の気候地域区分
	9 6. 植生地域 世界の植生の水平分布と垂直分布
	10 7. 土壌類型の分布 成帯土壌と非成帯土壌の分布とその要因
	11 8. 海洋と陸水 地表における水の循環 (海洋, 陸水), 海流, 地下水, 河川
	12 9. 自然災害と環境劣化
備 考	

	週	内 容
後 期	1	世界の自然地域における人間の生活 1. 人間と自然環境の関連についての諸理論
	2	2. 熱帯地域 高温湿潤環境の人間への影響、風土病、第3世界としての特質
	3	熱帯の開発の歴史、植民地時代、温帯への従属 熱帯環境への現代的対応、東南アジアの新興工業国
	4	3. 砂漠地域 乾燥への適応によって形成された生活形態、砂漠とイスラム教
	5	地下資源開発と中近東の近代化とその諸相
	6	4. 地中海性気候 乾燥地域と冷温帯との漸移地域としての特質
	7	夏季高温乾燥冬季温暖湿潤な気候への特殊な人間生活の適応形態 地中海地域とカリフォルニアの文明論的比較
	8	5. 中緯度草原地域 中央アジアと合衆国西部とアルゼンチンパンパの比較
	9	6. 温帯混合林地帯 四季の変化の明瞭な気候と人間生活、先進工業国と自然環境との関係
	10	四季の変化の明瞭な気候と人間生活、先進工業国と自然環境との関係
	11	7. 寒帯森林地域 きびしい冬季への適応を中心とする生活形態
	12	8. 山地地域 高度に適応した生活形態、アンデス山地、ヒマラヤにおける生活の高度による変化
備考		

参考文献：

評価方法：

(提出課題、試験等)

地誌学概説 I・II [地誌学概説]

[地誌学概説 I (前期)]

担当者：犬井 正

研究室：[719]

テキスト：

目 標：地理教育のなかで重要な学習の一つである地誌について、その方法を概説し、地誌教育の実際として、イギリスを事例として地誌を講義する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

週	内 容
後 期	1 本講義の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等のオリエンテーションを行う。
	2 地誌学の方法と地理学習上の意義について。
	3 地誌学習における地域区分の意義と方法について。
	4 大陸西岸の島しょ国家イギリス。 イギリスの自然環境について。
	5 ケルト・ローマ・バイキング・アングロサクソン。 イギリス文化の歴史的背景を探る。
	6 ピーター・ラビットの世界。 自然破壊と自然保護。
	7 産業革命の進展と農業の変容。 イギリスの工業化と農村の変容。
	8 グリーンベルトとニュータウン政策。 イギリスの都市のデザインと都市生活。
	9 ECの中のイギリス経済と生活。 島しょ国と大陸諸国との比較。
	10 同 上
	11 日本とイギリスの共通点と相違点 対象地域を通して、自国の風土・文化の理解をすすめる方法。
	12 講義のまとめと評価
備 考	

参考文献：教科書は特になし。参考文献リストは第2週の講義時に配布する。

評価方法：授業への貢献度とレポートの結果を総合的に判断する。

[地誌学概説Ⅱ（後期）]

担当者：山本 正三

研究室：[734]

テキスト：山鹿誠次（著）『イギリスとアメリカ』 大明堂

正井泰文（著）『アメリカとカナダの風土』 二宮書店

目 標： アメリカ合衆国を例にして、地誌学的な地域のとらえ方を学習する。

年間予定

	週	内 容
後 期	1	合衆国のなりたちと自然的基盤。 巨大な規模の自然とその地域的多様性（寒帯から温帯まで）について説明する。
	2	住民と開拓の歴史。 広大な大陸をどのようにして開拓し、居住地域化していったか。住民の構成・移民国の特質。
	3	巨大な生産活動。 中西部、西部、カリフォルニアにおける農業生産、世界の穀食としての地位、アメリカ的農業生産様式。
	4	豊かな地下資源と巨大な工業生産。 広大な国土にどのように鉱工業地域が形成されてきたか。
	5	発達した通信ネットワーク。 発達した道路交通網、鉄道、水上交通路網の変遷、航空交通、地域的特色。
	6	アメリカ型都市文明。 広大な都市化地域と超高層ビルに代表される都市の景観と構造および合衆国特有の都市問題。
	7	合衆国の地域区分 1)北 東 部… 合衆国で最も早く開発された地域の特徴。
	8	2)メガロポリス… 巨大な都市化地域の諸相、ニューヨークに代表される合衆国都市の構造と社会問題。
	9	3)中 西 部… 五大湖地域の工業地域と世界最高水準の農業の展開する中西部コーンベルト。
	10	4)サンベルト… 南部、南西部、南東部の新興工業と冬季保養の地域とその発展。テキサスの先端生産地域。
	11	5)カリフォルニアと北西部… カリフォルニアの先端的農牧業と工業、自然災害にみまわれる太平洋沿岸地域。
	12	6)アラスカとハワイ諸島… 熱帯保養産業の発展、アラスカの地下資源開発。
備 考		

参考文献：

評価方法：

（提出課題、試験等）

	週	内 容
後 期	1	日本の学歴社会を中心にして現代の学校教育の社会的性格を問う。
	2	社会の産業化が、経済システムの変革を越えて、社会構造および文化をも変化させてきたことを説明する。
	3	前週のテーマに関して説明を続ける。
	4	権力構造の社会学的分析を説明する。
	5	市民の政治参加の諸形態を論じる。
	6	余暇活動の現代的意義を問題にする。
	7	大衆余暇とマス・コミとの関係を見る。
	8	社会学的視点から犯罪・非行の問題を論じる。
	9	高齢化社会を人口学的におよび社会学的に分析する。
	10	高齢化社会に関する日本人の意識を各種調査資料にみる。
	11	生活の質の考え方を論じる。
	12	生活の質の観点から現代の福祉問題を考える。
備 考		

参考文献：その都度挙げる。

評価方法：前後期の定期試験と受講態度によって行う。

(提出課題、試験等)

哲 学 概 説

担当 者：鹿毛 誠一

テキスト：

目 標： 哲学を「教職の相の下に」できるだけ絞って見ることにしよう。それにしても、ヘーゲルがいう哲学は哲学史で、哲学史は哲学であるといった連関がある。その連関が、教師になって担当教科の如何をも超えて、どこかで生きてくることがあるような講義であることを考案・工夫する。

年間予定

() 曜日： () 限： () 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	常識や科学あるいは宗教と哲学の異同から、“哲学的な考え方”の特徴を指摘する。
	2	古代ギリシア、ローマ、中世、近世、現代とそれぞれの時代や民族による発想と形而上学の流れを、代表的哲学を挙げて通覧する方法で始める。
	3	ターレスからデモクリトスまでのギリシア自然哲学。
	4	ソピストとソクラテス
	5	プラトン
	6	アリストテレス
	7	ストアとエピクロス
	8	アウグスチヌスとトーマス・アクイナス
	9	中世の普通論争
	10	ルネッサンス期
	11	デカルトの合理主義と主意主義
	12	ルソーの「自然へ帰れ」と「社会契約説」
備考	講義の進み方によって、次回の話が繰り上がったたり、次回へずれこむことがある。	

	週	内 容
後 期	1	カントの批判的方法
	2	ヘーゲルの弁証法
	3	フォイエルバッハやマルクスの宗教や政治批判
	4	キェルケゴールの実存的思考
	5	ニーチェの生の哲学
	6	ディルタイの解釈学
	7	フッサールの現象学
	8	ハイデガーの存在論
	9	ヤスパースやサルトルの実存主義
	10	ボルノーの哲学的人間学
	11	フランスの構造主義や文化記号論
	12	西洋と日本の文化比較
備考		

参考文献：「新訂・生と理性」共著、「知の文化と型の文化」鹿毛著ほか

評価方法： 定期の筆記試験

(提出課題、試験等) 夏休みの前後に、任意のテーマで「レポート」を書いてみることに。

	週	内 容
後 期	1	価値（1）
	2	価値（2）
	3	価値（3）
	4	価値（4）
	5	道德意識（1）
	6	道德意識（2）
	7	徳と義務
	8	行為
	9	自由（1）
	10	自由（2）
	11	愛
	12	
備 考		

参考文献： 適宜指示する。

評価方法： 履修者は少ないことが予想されるので、前期・後期共レポートによる予定（提出課題、試験等）である。毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。

宗 教 学 概 論

担 当 者：鈴木 康治 研究室：[736]

テキスト：特に定めない

目 標：宗教とは何か、そして宗教現象の事象を追ってみる。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	概要説明
	2	宗教とは何か 1.
	3	同上 2.
	4	宗教学の諸問題 1.
	5	同上 2.
	6	日本の宗教事情 1.
	7	同上 2.
	8	年中行事 1.
	9	同上 2.
	10	通過儀礼の諸問題 1.
	11	同上 2.
	12	同上 3.
備考		

	週	内 容
後 期	1	前期概要とまとめ
	2	祭りの事例 1.
	3	同上 2.
	4	同上 3.
	5	祭りと現代 1.
	6	同上 2.
	7	社会と宗教（集団） 1.
	8	同上 2.
	9	タブーと戒律
	10	修行（生体処理と死体処理） 1.
	11	同上 2.
	12	宗教の規定
備考	時事問題をはさむことあり。融通さを期している。	

心 理 学 概 論

担 当 者：針 生 悦 子

テキスト：R. D. グロス『キースタディーズ 心理学 上・下』 新曜社

目 標：心理学の重要知見（能、動物、発達、社会的行動、精神病理etc.）が、どのような方法で引き出されてきたものなのか、に焦点をあて、心理学の方法論について考えていく。

年間予定

（ ）曜日：（ ）限：（ ）棟（ ）

	週	内 容
前 期	1	第1章 福祉増進の手段としての心理学
	2	第2章 情動性と知覚的防衛
	3	第3章 絵の知覚と文化
	4	第4章 心、脳、プログラム
	5	第5章 処理の水準——記憶研究の枠組み
	6	第6章 言語情報の視覚記憶への意味的統合
	7	第7章 身体的魅力と結婚の選択
	8	第8章 英国のテレビ広告における性役割のステレオタイプ化
	9	第9章 強制された承諾の認知的結果
	10	第10章 服従の行動的研究
	11	第11章 良きサマリア人主義——隠れた現象なのだろうか
	12	第14章 チンパンジーに手話を教える
備 考		

	週	内 容
後 期	1	第15章 刷り込み現象と知覚的学習
	2	第17章 大脳半球分離患者の認知行動
	3	第20章 睡眠中の眼球運動と夢を見る活動の関係 — 夢の研究のための客観的方法
	4	第21章 催眠、動機づけおよび従順性
	5	第22章 条件づけられた情動反応
	6	第23章 かつて施設で暮らしたことがある青年の社会・家族関係
	7	第24章 5歳児における恐怖症の分析
	8	第25章 保存実験における1質問方式
	9	第26章 配偶者に先立たれた者の幻覚体験
	10	第27章 知能の家族研究 — 評論
	11	第29章 狂気の中で正気であること
	12	第31章 多重人格の一症例
備 考		

評価方法：ゼミ形式の授業を行なう。すなわち、テキストの章を各自が担当し、その発
 (提出課題、試験等)表にもとづいて討論をする。したがって評価は、発表・討論を含めた授業へ
 の貢献度と、(授業内容に応じて)随時課せられる課題の内容によって決定
 する。

新・旧科目の移行措置と履修学年

旧 = 1992年度以前の入学者に適用

新 = 1993年度以降の入学者に適用

旧	新	履修学年	移行措置
教育原論	教育原論 I・II	2年生	合併授業
教職のための心理学	教職心理学 I・II	2年生	
生涯教育論	生涯教育論	2年生	
学校教育論	学校教育論	2年生	
教育法規	教育法規	2年生	
教育方法の理論と応用	教育方法学	2年生	
ドイツ語科教育法	ドイツ語科教育法 I・II	3年生	
英語科教育法	英語科教育法 I・II	3年生	
フランス語科教育法	フランス語科教育法 I・II	3年生	
社会科教育法	社会科教育法 I・II	3年生	
地理・歴史科教育法	地理・歴史科教育法	3年生	
公民科教育法	公民科教育法 I・II	3年生	
道徳教育の研究	道徳教育の研究	2年生	
特別活動	特別活動	2年生	
生徒指導法	生徒指導法	2年生	
教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)	教育実習 I (教育実習の事前・事後指導)	3年生後期	
教育実習 II <実地実習>	教育実習 II <実地実習>	4年生	
日本史概説	日本史概説	1年生	
東洋史概説	外国史概説 I・II	1年生	
西洋史概説	外国史概説 III・IV	1年生	
地理学概説	地理学概説	1年生	
地誌学概説	地誌学概説 I・II	1年生	
地理学調査法	地理学調査法	2年生	
社会学概論	社会学概論	2年生	
哲学概説	哲学概説	2年生	
倫理学概論	倫理学概論	2年生	
宗教学概論	宗教学概論	2年生	
心理学概論	心理学概論	2年生	